

## 夏季集中研修

## 「教える・学ぶ・考える」

## —質的研究と学習環境デザイン—

日時：2013年8月10日(土)・11日(日) ※2日間連続講座, ワークショップは一つを事前選択

会場：東京大学 本郷キャンパス 工学部2号館 (東京都文京区本郷 7-3-1)

交通：地下鉄本郷三丁目駅, 根津駅(工学2号館の最寄駅), 東大前駅, 他

アクセスマップ(本郷キャンパス): [http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/map01\\_02\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/map01_02_j.html)

キャンパスマップ(工学部2号館): [http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01\\_04\\_18\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01_04_18_j.html)

日本語を教える私たちは、日々、最善の授業をと心がけています。しかし、ときにそこで行われる方法や教育の在り方を振り返り、見直していくことは重要ではないでしょうか。今年の夏季集中研修では、2つのワークショップを行います。2日間じっくり時間をかけ、教育実践を研究につなげる手法や、教室を「外」につなげ継続発展させるための学習環境デザインについて学びます。

## ワークショップ① &lt;質的研究&gt;

## 「質的研究と SCAT(Steps for Coding and Theorization)を体験する」

講師: 大谷 尚 氏(名古屋大学大学院 教育発達科学研究科)

みなさんは、自分の教育実践の分析のために観察記録やインタビュー記録(データ)を取ったのに、ただ記録に書いてあることをまとめただけで、深く有意義な分析ができなかったということはありませんか？

このワークショップでは、まず質的研究方法論について学んだ後、初学者にも取り組みやすい質的データ分析手法 SCAT を使って実際にデータを分析することで、自分のデータを分析できるようになることを目指します。

## 【参考文献】

- ・大谷尚 (2008)「4ステップコーディングによる質的データ分析手法 SCAT の提案—着手しやすく小規模データにも適用可能な理論化の手続き—」『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要(教育科学)』Vol.54, No.2, pp.27-44
- ・大谷尚 (2011)「SCAT: Steps for Coding and Theorization —明示的手続きで着手しやすく小規模データに適用可能な質的データ分析手法—」『感性工学』 Vol.10, No.3, pp.155-160
- ・大谷尚(2008)「質的研究とは何か—教育テクノロジー研究の いっそうの拡張をめざして—」『教育システム情報学会誌』Vol.25, No.3, pp.340-354 但し、この論文は前半のみ(p349 の 2.7 まで)

## ワークショップ② &lt;学習環境デザイン&gt;

## 「日本語学習の環境デザインを提案する —どう組み立て、どう伝える？」

講師: 神吉 宇一 氏(一般財団法人海外産業人材育成協会)

「なぜ日本語を学ぶ必要があるのか」、個人の学習ニーズとしてではなく、社会的な観点から日本語教育は本当に必要とされているのか。必要とされているのであればどのような目的・内容・方法が求められているので

しょうか。

国内外を問わず、日本語教育を取り巻く環境は大きく変化しつつあり、日本語教育と社会とのつながりがさまざまな側面で重要になってきています。その環境変化は、冒頭の問いとも密接に関連しています。日本語学習の環境デザインという観点から考えると、社会とのつながりは二つの階層に分けられます。一つは、学習活動自体が社会とつながっていること。もう一つは、日本語教育の専門家がその学習活動の意味や価値を社会の多くの人に伝え、理解してもらい、日本語教育関係者以外との協働関係を構築していくことです。

そこで本研修では、教室における学習活動のデザインを含めた、日本語学習のグランドデザインをどう組み立てるのか、そしてそれを日本語教育専門家以外の方々にとどのように伝えるか、参加者のディスカッションを通して考えていきます。研修のゴールとして、それぞれの立場に応じた「説得力のある提案」のポイントを理解し、実際に模擬的なプレゼンテーションを行うことを目指します。

### スケジュールと申込方法

◆日程：1日だけの参加はできません。2日間連続でご参加できることが応募条件です。

1日目：2013年8月10日（土）10：00-17：30

2日目：2013年8月11日（日）10：00-16：00

◆受講料：12,000円 \*日本語教育学会員または大学院生割引価格10,000円

◆定員（先着順）：ワークショップ①（質的研究）30名  
ワークショップ②（学習環境デザイン）30名

◆応募条件：以下の条件を全て満たす方。

A：日本語教育経験のある方

B：2日間の全日程に参加できる方（参加できるワークショップはどちらか一つのみです）

C：事前課題をできる方（各ワークショップの事前課題の詳細は次頁以降をご覧ください）

D：ワークショップ①（質的研究）はエクセルの基本的操作ができる方

◆申込方法：次頁以降にあります各ワークショップの事前課題をご確認のうえ、申込書をEメール添付かFAXでお送りください。申込書は日本語教育学会ホームページからダウンロードできます。メールの題名は「夏季集中研修申込」としてください。申込書が届き次第、到着順に受領メールをお送りします。申込書を送っても受領メールが到着しない場合は、必ずご自身の責任においてご確認ください。なお、本研修に関する連絡は基本的にEメールのみで行いますのであらかじめご了承ください（事務局対応時間は平日9～18時です）。

◆申込締切：2013年6月30日（日）※締切日前でも定員に達し次第、募集を終了します。

◆申込書送付先および問合せ先：公益社団法人日本語教育学会 教師研修委員会事務局  
TEL：03-3262-4291 FAX：03-5216-7552 E-mail：kyoshikenshu@nkg.or.jp

◆よくあるご質問 Q&A

1. 2つのワークショップに参加できますか？

できません。申込時にワークショップを一つだけ選択してください。本研修は、グループワークを中心に2日間かけて参加者同士でじっくりと取り組むワークショップ形式の講座です。

2. 地方から参加します。大学の施設などに宿泊することができますか？

できません。参加者ご自身で近隣のホテル等のご予約・手配をお願いいたします。

3. 会場近くに昼食をとる場所がありますか？

8月10日（土）は学内の食堂が営業しておりますが、11日（日）は各自ご持参ください。

## 事前課題 ワークショップ① 質的研究

(講師:大谷 尚 氏)

### ■■当日までの事前学習■■

<<<研修当日は、以下のご準備が済んでいることを前提として、講習と実習を進めます>>>

○「SCAT」について、事前に以下のページをご覧ください。

<http://www.educa.nagoya-u.ac.jp/~otani/scat/>

○「SCATに関する論文」

<http://www.educa.nagoya-u.ac.jp/~otani/scat/#09>

から、以下の論文を事前にダウンロードして読んでおいてください。

- ・大谷尚(2008)「4ステップコーディングによる質的データ分析手法 SCAT の提案ー着手しやすく小規模データにも適用可能な理論化の手続きー」『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要(教育科学)』Vol.54, No.2, pp.27-44
- ・大谷尚(2011)「SCAT: Steps for Coding and Theorizationー明示的手続きで着手しやすく小規模データに適応可能な質的データ分析手法ー」『感性工学』 Vol.10, No.3, pp.155-160
- ・大谷尚(2008)「質的研究とは何かー教育テクノロジー研究の いっそうの拡張をめざしてー」『教育システム情報学会誌』Vol.25, No.3, pp.340-354  
 ※但し、この論文は、前半のみ(p349 の 2.7 まで)を読んでいただければ結構です。

○このページにあるSCATについての情報、特に下記の箇所を読んでおいてください。

・SCATに関するFAQ

<http://www.educa.nagoya-u.ac.jp/~otani/scat/#072>

・SCAT の tips と pitfalls

<http://www.educa.nagoya-u.ac.jp/~otani/scat/#07>

また、受講決定者へ研修で取り上げてほしい疑問点などを伺う簡単な事前アンケートが研修前に講師より送られますので、そちらの回答もお願いいたします。

その他に本ワークショップでは、講師より科学研究費助成研究に関する調査協力をお願いする場合がございます(調査協力は任意です)。

※ワークショップ②の事前課題は次ページをご覧ください。

## 事前課題 ワークショップ② 学習環境デザイン

(講師:神吉 宇一 氏)

### 【課題 1】

所属機関での日本語授業を想定して、社会とのつながりを明確に意識した学習活動(1コマまたは数コマ分の継続的取り組みでも可)の略案を書いてきてください。略案の書式、形式は特に指定しませんが、その学習活動によってどのような能力を育成するのかという目的・目標を必ず盛り込んでください。グループワークで共有するために、限られた時間で共有できる分量(あくまで目安ですが A4 用紙で 1~2 枚程度)でお願いいたします。

※所属機関でまったく取り組んだことのない案を書くことは妨げませんが、実現可能性の低い案は研修の質に影響しますので、その点十分に留意してください。

### 【課題 2】

以下の各項目について、参加者の所属機関の状況を整理し、記述した上で 7 月 10 日(水)までにメール [kyoshikenshu@nkg.or.jp](mailto:kyoshikenshu@nkg.or.jp) または FAX03-5216-7552 で日本語教育学会事務局まで提出してください。

※所属機関が複数ある場合は、課題 1 の学習活動案で想定している機関について記載してください。

- ・日本語教育の目的
- ・典型的な学習活動の内容や方法
- ・学習者の属性(特性)
- ・社会とのつながりという点での課題
- ・今回の研修で特に学びたいこと

以上